

## <受賞作品>

### ヨーロッパ部門：「イエリャーナ」(ロシア)

老夫婦、イエリャーナとヴラディミルは10年間一緒に生活をしている。ヴラディミルは金持ちだが支払う金に厳しい男。彼にとってイエリャーナは妻というよりメイドに近い存在である。

イエリャーナには前の夫との間に息子がいるが、この息子は妻と2人の子供を抱えていながらアルコールに依存し無職で貧しい暮らしをしている。ヴラディミルにはかなりの資産があるが、イエリャーナの子供への援助に乗り気ではない。

ある日ヴラディミルは心臓発作を起こし、もう先は長くないと病院から追い出される。自宅で療養する彼は、財産分与についての遺書を書くつもりだとイエリャーナに告げる。娘にすべての財産を与え、イエリャーナにはほんの少しの扶養料を残すだけだと言うのだ。

誰もが同情するような優しくかわいらしい老婦人が、息子にチャンスを与えるための金を手に入れようと、あるトリックを思いつく。

#### **監督：アンドレイ・ズビャギンツェフ**

ノヴォシビルスクで生まれる。

1990年、GITIS（国立舞台芸術学校、ユージーン・ラザレフ科）の演技学部を卒業。

アンドレイは俳優としてインDEPENDENTの演劇プロジェクトに参加。テレビシリーズや映画などで何度かカメオ出演している。

2000年、フィクション映画で監督としてデビューする。REN TV局の番組A Black Roomの中で、短編“Bushidoo”“Obscure”“Option”を手掛ける。

2003年、初長編映画 Vozvrashchenie (The Return/「父、帰る」)が“その年に最も評判を得た映画”となった。同作品はベネチア国際映画祭のコンペティション部門で金獅子賞を受賞。初めての作品で受賞という快挙だった。「父、帰る」は同時に新人監督賞も受賞し、“愛、喪失、そして大人になることについて描いた、極めて繊細・精巧な作品”と絶賛された。

2作目の長編映画は Izgnanie (The Banishment)。2007年カンヌ国際映画祭でプレミア上映され、コンスタンチン・ラヴロネンコが最優秀主演男優賞を受賞。彼はズビャギンツェフの前作、「父、帰る」でも主演している。以降ラヴロネンコはロシアのトップ俳優の座に君臨している。

2000年 Bushido / Obscure / Option (テレビ番組 A Black Room の中の短編)

2003年 Vozvrashchenie (The Return/「父、帰る」)

2007年 Izgnanie (The Banishment)

2008年 New York, I Love You (ニューヨーク、アイラブユー)

短いアポクリファ

=====

### ラテンアメリカ部門：「エリ」(メキシコ)

メキシコの小さな町。住民は自動車の組み立て工場か、地元のドラッグ・カルテルで働くしかない。突然行方不明となった父を捜す長男エリは、警察の腐敗やドラッグ密売、性的搾取、愛、罪、そして復讐に直面する。

**監督：アマット・エスカランテ**

1979年、スペインのバルセロナで生まれる。国籍はメキシコ。

2008 「よそ者 (Los Bastardos)」 - 35mm - 監督、脚本

最優秀作品賞 モレリア映画祭, メキシコ

新しい視点 最優秀作品賞 シッチェス映画祭, スペイン

国際審査委員賞 (第2位), ペルー, リマ

最優秀ラテンアメリカ映画, マール・デル・プラタ映画祭, アルゼンチン

最優秀作品賞 コズモラマ映画祭, ノルウェー

最優秀監督賞 ブラティスラヴァ映画祭, スロバキア

特別審査委員賞 クールマイユール・ノワール映画祭, イタリア

観客賞 デュランゴ映画祭, メキシコ

2005 「Sangre」 - 35mm - 監督、脚本、編集

F I P E R S C I 賞(国際批評家連盟賞) カンヌ映画祭

最優秀監督賞 ブラティスラヴァ国際映画祭

最優秀新人賞 メキシコシティ国際現代映画祭, メキシコ

シルバーアレキサンダー賞 テッサロニキ映画祭, ギリシャ

Cine de couvertes 賞, ブリュッセル映画祭, ベルギー

2002 「Amarrados」 - 16mm - 監督、脚本、撮影

最優秀短編作品賞 ニューポート・ビーチ国際映画祭, アメリカ

最優秀短編監督賞 ニューポート・ビーチ国際映画祭, アメリカ

最優秀作品賞 VOLADERO 国際映画&ビデオ祭 Monterray, メキシコ, ヌ  
エボレオン

最優秀観客賞 CINEACCION ラテン映画・ビデオ祭, アメリカ, サンフラン  
シスコ

第一位(州大会) 全国子ども映画祭 アメリカ, テキサス, オースティ  
ン

第5位(全国大会) 全国子ども映画祭 アメリカ, インディアナポリス

=====

### アメリカ部門：「南の果ての野獣ども」

ルイジアナ州のデルタ地帯。南部に終末をもたらす大災害が迫る中、10歳の野性的な少女は父親を残してルイジアナの三角州にある家を出て行くことを拒んでいる。氷山が溶け、水位が上昇し、古代の野獣たちが解凍されてよみがえる。彼らに降りかかる南部の大災害。少女は、見捨てられた反骨の仲間たちと父親を導いて、荒れ狂う勇壮を持って崩れ落ちた道を進んでいく。

**監督：ベン・ザイトリン (共同脚本：ルーシー・アリバー)**

ニューヨーク、クイーンズ地区で、二人の民俗学者のもとに育ったベンは、Court 13 所属の監督であり、アニメーター兼コンポージャーである。「Egg, Origins of Electricity」「I Get Wet」「Glory at Sea」のショートフィルムで監督賞を受賞している。映画雑誌 Filmmaker Magazine は、「インデペンデント映画の新星25人」にベンの名前を挙げている。現在ニューオーリンズに居住し2本の映画を製作中。映画用プロジェクターを備えた小屋型の車輦で全米を巡回上映する夢を持っている。

|                                 |      |
|---------------------------------|------|
| 2008 Glory at Sea               | 25 分 |
| 2006 The Origins of Electricity | 6 分  |
| 2005 EGG                        | 8 分  |
| I Get Wet                       | 9 分  |

=====  
**日本部門：「朝日ヶ丘の素晴らしき人々」**

川沿いの街、朝日ヶ丘で起こる迷える人々の物語。

えみりは自宅の6階から自殺を試みる。

麻里花は彼氏の智が同級生の葵に乗り換えるのではと恐怖する。

タクシー運転手の小谷は記憶喪失の幽霊えみりの記憶探しに巻き込まれる。

智は中年・壮年の男女に体売り、純愛小説の表現について考える。

智の存在を知った顧客の夫、健太郎は、彼を脅し300万出せと脅迫する。

窮地に立たされた智は、交通事故で出会った小谷に助けを求める。

**監督：山岡大祐 （共同脚本：江藤有吾）**

1975年生まれ。静岡県出身。

神奈川大学在学中にダメ人間を主人公にした自主映画を撮りはじめる。Vシネマのメイキングスタッフ、フィルム会社勤務などを経て、2007年に完成させた「ロストガール」が2009年渋谷ユーロスペースでレイトショー公開された。

「バカは死ななきゃ治らない」(99)

神奈川映像コンクール準グランプリ

「君にありがとう」(01)

短編映画館トリウッドで1ヶ月ロードショー

「みかとせいじゅん」(04)

フィラデルフィア国際レズビアン&ゲイ映画祭（アメリカ）上映

オースティン国際ゲイ&レズビアン映画祭（アメリカ）上映

山形国際ムービーフェスティバル 村上透監督賞

「ロストガール」(07)

ドレスデン国際映画祭（ドイツ）上映

「仲里依紗DVD Rise Films」

ショートフィルム脚本

=====